

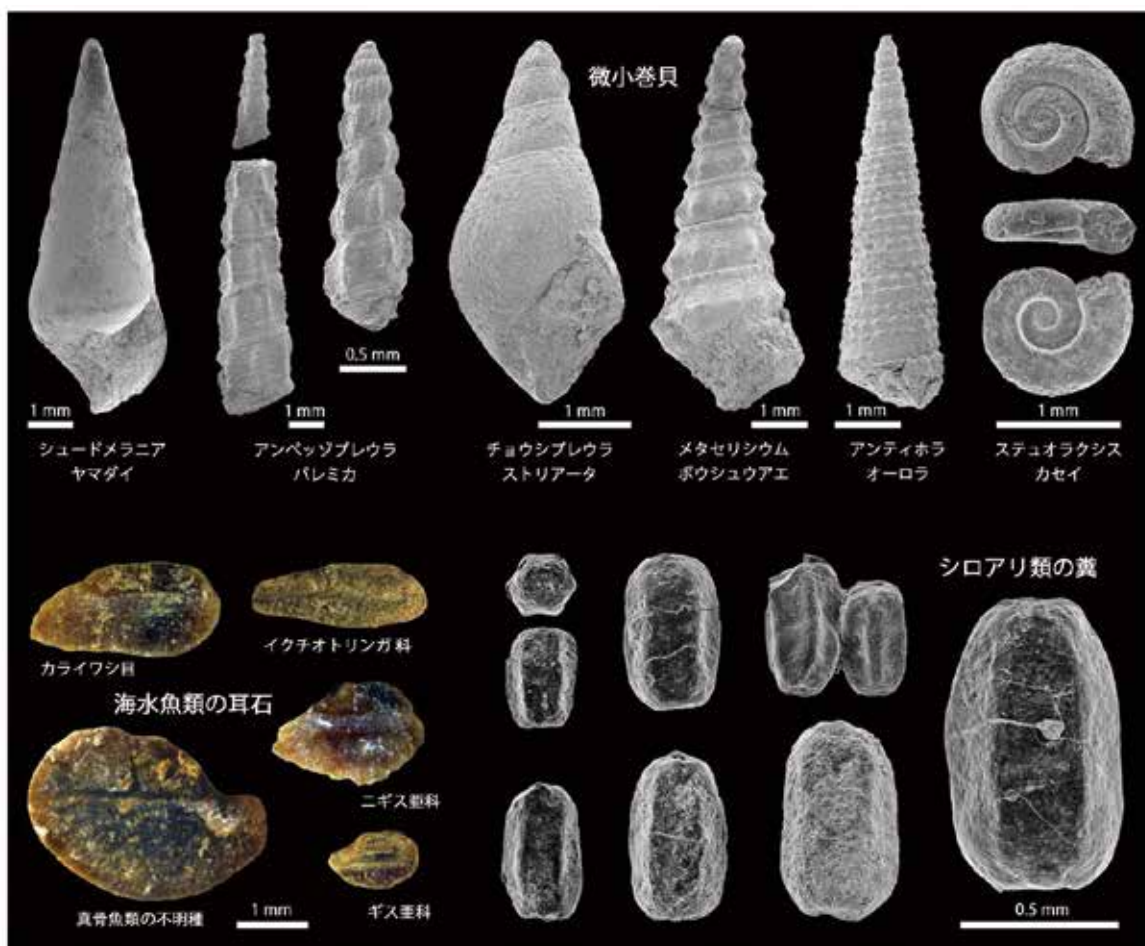
# いのち 生命のにぎわいとつながり

No.90

令和8年6月

千葉県にも、恐竜時代の地層があります。銚子半島の先端部にある「銚子層群」からは、大型の脊椎動物の化石を含む、様々な古代の動植物の化石が発見されています。今号では、その最新の知見の一端を皆様に紹介いたします。

## 銚子の恐竜時代の小さな化石たち



銚子半島に分布する中生代白亜紀の地層「銚子層群」から産出した小さな化石たち。新種の巻貝、海水魚類の耳石、シロアリ類の糞などの化石の発見により、多様な生物相が明らかになっています。

### CONTENTS

- 1 銚子の恐竜時代の小さな化石たち ..... 1
- 2 生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました ..... 3
- 3 企業と生物多様性セミナーを開催しました ..... 4
- 4 千葉県の希少種（ニホンマムシ） ..... 4

## ◎千葉県にもあった恐竜時代

千葉県の銚子半島には、およそ1億2千万年前の中生代白亜紀の浅い海に堆積した地層があり、銚子層群と名付けられています。生物多様性ちばニュースレター第58号（平成30年6月発行）では、これまでの研究で明らかにされた銚子層群の化石について解説しましたが、本号ではその後の新発見や研究の成果を紹介します。



銚子の海岸に露出する銚子層群  
(西明浦から犬吠埼灯台をのぞむ)

## ◎巻貝の新種発見！

平成12年（2000年）に、銚子層群の貝化石を多量に含む岩石が、中央博物館に寄贈されました。この岩石を切断し研磨したところ、小さな貝化石が混ざっていることに気づきました。硬い岩石の中から小さな化石を取り出すことは簡単ではなく、見過ごされることも多いのですが、特殊な薬品で岩石を溶かす方法を用いたところ、大きさが1cmに満たない巻貝の化石を大量に採取することができました。そこから6種もの新種の巻貝が発見されました。



千葉県立中央博物館で展示中の貝化石を含む岩石

生物の多様性を明らかにするには、小さな種類にも目を向ける必要があります。この微小な化石の発見で、銚子層群の巻貝化石の種類が倍に増え、白亜紀巻貝類の多様性をより明らかにすることができました。また、博物館に寄贈された岩石から新種を発見できたことは、博物館の研究や収蔵・保管機能の重要性をあらためて示すことにもつながりました。

岩石を溶かして見つかった化石には、新種の巻貝のほかにも、小さな化石がたくさん含まれていました。以下に、その研究結果をご紹介します。

## ◎浅い海に深海魚？

ニュースレター第58号でも紹介した魚類の耳石<sup>じせき</sup>（内耳にある炭酸カルシウムの結晶）は、その後の研究で、少なくとも5種類の海水魚類の耳石であることがわかりました。この研究成果は、白亜紀バレミアン期の海水魚類の耳石を、世界で初めて報告した論文となりました。発見された耳石の中には、ギス亜科とニギス亜科魚類が含まれますが、これらは現在では主に深海に生息している魚類です。銚子層群は浅海で堆積した地層であるため、白亜紀バレミアン期にはこれらの仲間が浅海に生息し、その後、深海に生息場所を変えた可能性があることがわかりました。

## ◎植物のタネ？

大きさが1mmに満たない、六角形の樽のような形をした粒状の化石が見つかりました。この化石と一緒に見つかる植物の化石と色合い（黒色から茶色）が同じであったため「植物のタネ」と想像したのですが、植物化石の研究者には「植物ではない」と断言されてしまいました。その後、ふと「coprolite（コプロライト＝糞の化石）」という言葉思い出し、インターネットで検索したところ、銚子の化石とほとんど同じものが、50年以上前から世界各地の地層で発見されていることを知りました。

それは、シロアリ類の糞の化石でした。六角形の硬い糞をする種類は、レイビシロアリ類やムカシシロアリ類などの、乾いた木材を食べる種類に限定されます。糞の化石からは、シロアリの種類を特定することはできませんが、銚子層群が堆積した地域に、乾いた木材を食べるシロアリ類が生息していたことの証拠となります。銚子層群と同時代のシロアリ類の糞の化石は、これまでイギリス、フランス、カナ

ダから知られていたのですが、遠く離れた日本からも化石が発見されたことにより、白亜紀バレミアン期にはシロアリ類がユーラシア大陸に広く生息していたことが明らかになりました。



千葉県立中央博物館では、令和8年7月11日（土）から9月27日（日）まで、特別展「ちば恐竜博－驚異の捕食者たち－」を開催します。「捕食者を科学する！」をテーマとして、恐竜などの古生物を中心に、さまざまな肉食動物に焦点を当て、その生態や体の作りを解説します。

(伊左治 鎮司 千葉県立中央博物館)

### 生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました 令和8年3月7日(土)

生命のにぎわい調査団は令和8年3月末で設立から17年8ヶ月が経過し、団員数は約1,930名、累積報告件数は155,535件を超えました。

令和8年3月7日（土）に中央博物館講堂で生命のにぎわい調査フォーラムを開催し40名（団員と同伴者）が参加して千葉県の生き物について情報交換しました。

今回はセンター職員による3件の情報提供と、調査団員4名から観察事例を紹介いただきました。また、調査団員からの投稿による写真コンテストの結果発表、受賞作品に併せた詩の朗読も行いました。

## 1 生物多様性センターからの情報提供

- ・「千葉県の外来昆虫類などについて」 佐藤哲也
- ・「生き物の名前は、どうして変わるのか？」 下稲葉さやか
- ・「生き物報告の方法と今年度のまとめ」 松坂麻美

県内の外来の昆虫類について発見時の対応等を説明しました。次に、生き物の名前について、和名と学名の違いや和名が変わる理由などを解説しました。最後に、調査団の生き物報告フォームの使用方法や令和7年度の発見報告のまとめについて紹介しました。

## 2 調査団員からの情報提供・観察事例紹介

- ・「希少生物モリアオガエルの観察とその環境」 高見等
- ・「トウキョウサンショウウオの飼育保護と上陸放逐の実践報告」 佐久間祐希
- ・「ナガエツルノゲイトウ調査」 城之内健一
- ・「野鳥の羽伸ばしストレッチ方法と種による違い」 千葉公

団員からは野外での観察記録、希少種保護活動に加え、外来水生植物の観察事例紹介について発表いただきました。

## 3 令和7年度写真コンテストの審査発表

フォーラム参加者の投票により、応募35作品から最優秀賞と優秀賞を決定しました。これらの作品は、センターの年報の表紙などに使わせていただきます。

また、センター職員が選んだ生物多様性センター賞も設けました。受賞作品には、当センター職員であり、詩人でもある大島健夫が受賞作品に詩を添え、1番のお気に入り写真に「大島賞」を捧げました。応募作品35点は、トピックス展「生命のにぎわい」生命のにぎわい調査団 生物多様性写真展として、3月10日（火）から5月6日（水）の期間、中央博物館で展示され、15,361人にご覧いただきました。

(佐藤 哲也 千葉県生物多様性センター)



写真コンテスト最優秀賞 はじめまして (和田 信裕)



写真コンテストの様様

## 企業と生物多様性セミナーを開催しました 令和8年2月19日(木)

第28回となる企業と生物多様性セミナーを開催しました。

このセミナーは、県内に工場・事業所がある企業を対象に、企業による生物多様性保全の取組を促進するため、生物多様性に関する情報の発信や企業による取組事例の紹介等を行うものです。

今回のセミナーでは、「企業活動と外来生物」をテーマに、まず生物多様性センターの佐藤哲也より「千葉県の外来生物」と題して、千葉県内の外来生物問題の実際と留意すべき事項について講演を行いました。

また、企業ネットワーク参加団体からは、株式会社TOAシブルの青砥望氏より「完成形ではない生物多様性の取り組み - 「まずやってみる」から始まった私たちの挑戦 -」と題して、日本電気株式会社の津田麻祐子氏より「NEC我孫子事業場における生物多様性保全活動」と題して、それぞれの社で取り組まれている生物多様性保全活動についての発表をいただきました。

千葉県からの報告としては、「地域生物多様性増進法について」と題し、法の背景や主な策定事項、自然共生サイトの認定や、認定された際のメリットについて、生物多様性センターの鈴木健太より発表を行いました。なお、それぞれの発表資料は当センターウェブサイトに掲載しています。

当日は32名の参加者があり、企業に限らず、自治体、NPOなど様々な皆様にお越しいただきました。アンケートでは、企業による生物多様性保全活動に携わる上でのリアルな話が参考になった、社内での取り組みに生かしていきたい、といった声が寄せられ、各企業や団体の関心の高さとともに、ネットワークを通じた知見の共有の必要性を感じさせるセミナーとなりました。(大島 健夫 千葉県生物多様性センター)



## 千葉県の希少種

### ニホンマムシ



(千葉県レッドリスト・重要保護生物B)

ニホンマムシは最大で全長65cmほどになるクサリヘビ科のヘビの仲間で、北海道から屋久島に生息する日本の固有種です。頭部は矢尻形で、上面は濃い褐色、横面は目を通る黒い縦縞の上下が黄色や白に縁どられています。胴体には、黄土色の細い横帯が20本前後入り、横帯と横帯の間には縁と中央が黒くその間が褐色になる銭形紋とも呼ばれる模様が挟まっている、という特徴的なパターンが見られます。夜に活動する夜行性と解説している図鑑などもありますが、実際には時間よりも気温、季節、環境に応じて構造物に隠れたり開けた場所に現れたり、温度によって活動様式を決めていることがわかっています。これからの夏の時期は人にとって快適な場所・時間はニホンマムシたちにとっても快適です。自然豊かな場所で活動をするときは、彼らの住処にお邪魔する気持ちを忘れずに、歩く場所、手足を置く場所、座る場所などを直前によく眺めることが事故防止に重要と言えるでしょう。万が一咬まれてしまったときはすぐに病院に行き、適切な治療を受けてください。

本種は千葉県内に広く生息していますが、好適な環境が面的に残る南部に比べ、北総地域では安定して見られる場所が分断され、数も限られています。比較的強い毒を持つことから嫌われ、しばしば故意に殺されてしまうこともあるニホンマムシですが、このような種との共存が果たされるためには、人間中心主義的な道具的価値だけではなく、生物の内在的価値や文化的価値を含めた多面的な価値認識が社会に共有されることを目標とした生物多様性保全の取り組みが必要なのではないかと感じています。

(栗田 隆気 千葉県立中央博物館)



生物多様性ちばニュースレター No.90 令和8年6月30日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター (環境生活部自然保護課)

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 (千葉県立中央博物館内)

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <https://www.bdcchiba.jp>

リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。